

新^{しん} 緑^{みどり} ニュース



病院の理念

確かな医療技術
やさしい対応
地域への貢献

医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)



4月入職 常勤医師のご紹介

※ ご挨拶と写真は5月号に掲載します。

《 消化器内科 》 医長 石垣 智之 (いしがき ともゆき)

- 日本内科学会 認定内科医
- 日本消化器内視鏡学会 専門医 指導医
- 日本消化器内視鏡学会 関東支部評議員 学術評議員
- 日本消化器病学会 専門医 指導医
- 日本消化管学会 胃腸科専門医 指導医 代議員
- 日本大腸検査学会 評議員

健康講座「糖尿病腎症について」 横浜新緑総合病院 糖尿病外来 非常勤 小武 由紀子

糖尿病には三大合併症と呼ばれる、合併しやすい症状・病態があります。それが神経障害、網膜症、腎症の三つです。網膜症は目に起こる病気であることから神経、目、腎臓のそれぞれの最初の文字をとり『しめじ』と覚えます。

このほか血管の病気や、感染症、認知症、癌を合併しやすくなるなど様々な合併症があります。

今回は中でも腎症についてご説明いたします。



神経、目、腎臓
しめじ

【糖尿病腎症とは】

腎臓は、体の背中側にあるソラマメ型のだいたい握りこぶし大ほどの臓器です。細かい血管の集まりでできており、血液をろ過して老廃物を尿にして排出する働きをしています。

その他、体の水分や血圧の調節、血液の成分を作るホルモンの分泌、カルシウムや骨にかかわるビタミンDを合成するなど、様々な働きをしている重要な臓器です。

糖尿病で血糖値が高い状態が続くと、血管が傷んでしまいます。腎臓は細かい血管が集まってできた臓器なので高血糖によるダメージを受けやすく、働きが悪くなってしまいます。糖尿病が原因で腎臓の働きが悪くなった状態のことを糖尿病腎症と呼びます。

【糖尿病腎症の症状】

初期は自覚症状がほとんどないことが多いです。このため進行してしまう前に検査でチェックすることが重要です。症状としては、足のむくみ、倦怠感、尿の泡立ちが消えにくいなどが挙げ



られます。進行すると機械で血液をろ過する透析が必要となります。

【糖尿病腎症の検査】

尿検査：尿中微量アルブミンという項目は腎臓の早い段階でのダメージを鋭敏に反映します。腎症が進行している場合は尿たんぱく検査で評価します。

血液検査：BUN（尿素窒素）やクレアチニン、eGFRという腎臓の機能を反映した項目があります。

【糖尿病腎症の対策】

一度低下してしまった腎機能を直接回復させるお薬は現在のところありませんが、腎臓の保護や、腎症の進行を遅らせる手立てはいくつかあります。基本は血糖値を良い値にキープすること、他には血圧（塩分は控えめに！）、禁煙などが重要です。

患者さんそれぞれの年齢・体調によって異なりますので、主治医の先生と確認するようにしましょう。

【さいごに】

基本は「糖尿病の管理」です。血糖値が悪ければ、合併症は進行します。食事指導、内服など、内科主治医の指示を守りましょう。糖尿病腎症だけでなく糖尿病網膜症も同じです。糖尿病がある方は、必ず目の診察が必要です。随時、ご相談ください。WEB版みんなの健康講座では、さらに詳しいご説明をしております。ぜひ、ご覧ください。

WEB版 みんなの健康講座
第8回
糖尿病腎症について





SCU (Stroke Care Unit : 脳卒中集中治療室) 開設

当院は一次脳卒中センター (PSC) としてより充実した脳卒中診療を実践するため、4月1日SCU (Stroke Care Unit) 3床を開設しました。

SCUとは、脳卒中 (脳梗塞、脳出血、くも膜下出血) 発症初期の患者さまに専門チームによる集中的な治療を行う病室です。脳卒中治療の経験を十分に有する専任の医師・看護師、専従のリハビリスタッフを配置しており、HCUと弾力的に運用することで、今まで以上に重症脳卒中に対応できる体制となりました。

当院は今後も地域救急医療の質向上に努めてまいります。



部門紹介 2021 | 5階東病棟

5階東病棟科長 山田 愛子

こんにちは、5階東病棟の紹介をさせていただきます。

当院では消化器内科医と外科医が一つの診療科として消化器センターを開設し、総合的に消化器疾患の検査、診断、治療にあたっています。入院病棟も消化器センターとしての運用をしており、5階東病棟が消化器センター病棟となっています。他には、婦人科の手術を受ける患者さまを担当する混合病棟で病床数は41床です。

手術治療、消化器内視鏡治療、化学療法など各科の急性期治療及び、消化器疾患の緩和治療を担っています。消化器センターとして病棟があるため、医師同士の情報交換やカンファレンスが行いやすく、スピーディーな治療を行う事ができる体制となっています。



5階東病棟スタッフ

当病棟では、多職種でのカンファレンスも充実させています。病棟で働く医療従事者は医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー等多くの職種があり、1人の患者さまについて、手術等の急性期治療を安全に受けさせていただくこと、治療後には安心して療養できる環境を整えることを目標に様々な職種のスタッフが意見を出し合っています。

患者さまに元気になっていただけるよう、スタッフ一同笑顔と元気を心掛け、日々働いています！



院内学術研究発表大会を開催

2月27日 (土) 「第29回 院内学術研究発表大会」を感染予防のためリモートで開催しました。

医療やケアの質向上に向けた日頃の取り組みや研究成果について、院内各部署から11演題が発表され、リハビリテーション部の「長期入院する誤嚥性肺炎患者の特徴」が金賞 (最優秀) に選ばれました。

毎年、本大会を通して他部門の取り組みを共有し、意見交換することで、サービス向上や業務改善のアイデアが生まれます。今後もより良い医療を目指し、職員一同、研鑽を続けてまいります。

WEB版みんなの健康講座

※オンライン配信

WEB版みんなの健康講座バックナンバーはホームページ、スマホ (QRコード) からいつでもご視聴いただけます。

第1回 脱腸 ～意外と多い脱腸～

第2回 知ろう！学ぼう！考えよう！乳がん

第3回 骨粗鬆症と腰椎圧迫骨折

第4回 糖尿病と運動療法

第5回 病気と思う前に～泌尿器科編①

第6回 糖尿病網膜症について

第7回 病気と思う前に～泌尿器科編②

第8回 糖尿病腎症について

